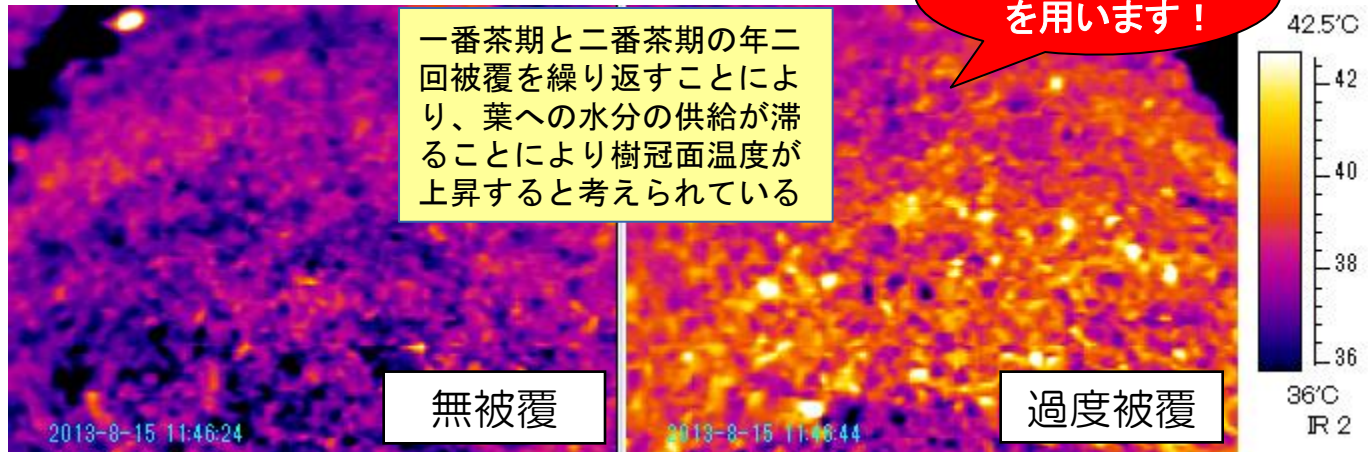


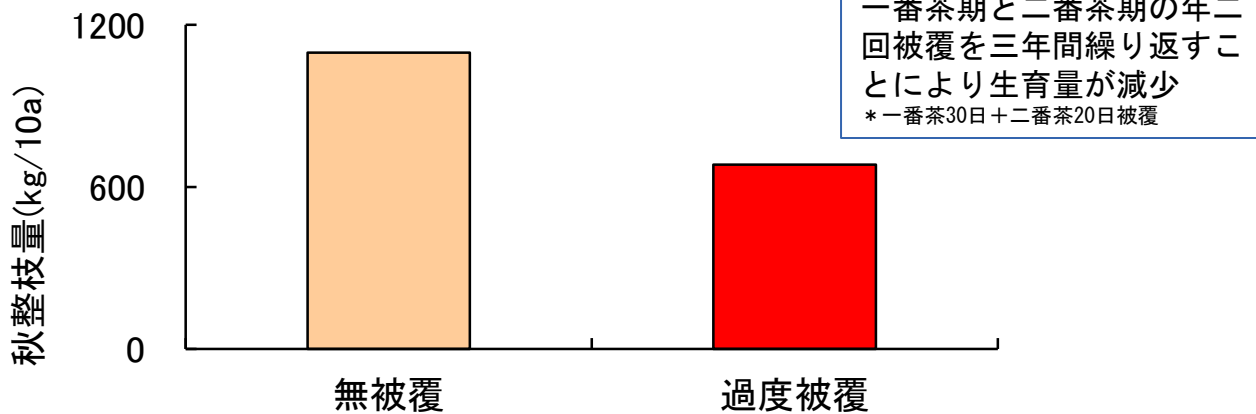
熱画像情報を用いた被覆栽培茶園の樹勢診断技術の開発 (農林センター)

過度被覆※による樹勢低下診断は、盛夏期の樹冠面温度の測定が有効

※「過度被覆」：一番茶期、二番茶期の被覆を毎年連続して行うこと。



盛夏期における茶うねの熱画像



- ・ 被覆期間が長いほど収量（一番茶、二番茶、および秋整枝量）は減少
- ・ 過度被覆の茶園では、水分供給能力が低下
- ・ 水分の必要量が多い盛夏期の樹冠面温度は、無被覆うねに比べて上昇する

- ・ 過度被覆による樹勢低下を診断するためには、
 - ①同一茶園内において比較するための無被覆うねが必要です。
 - ②樹冠面温度の測定を盛夏期晴天時の午前11時～午後2時の間に行います。